

令和7年度 せせらぎスクール推進事業報告書



福島県環境創造センター

目次

第1	せせらぎスクール推進事業とは	1
1	はじめに	1
2	せせらぎスクールとSDGs	2
	(1) SDGsとは	2
	(2) せせらぎスクールとSDGsの関連	2
第2	令和7年度せせらぎスクール推進事業の実績	3
1	せせらぎスクール	3
	(1) 募集案内及び教材の提供	3
	(2) 教材提供団体	4
	(3) 調査結果報告団体	5
	(4) 調査結果報告団体の紹介	6
2	せせらぎスクール指導者養成講座	9
	(1) ア 初級編(郡山会場)	10
	イ 初級編(裏磐梯会場)	11
	(2) 中級編(福島会場)	12
	(3) 実践編(須賀川会場)	13
第3	おわりに	15

第1 せせらぎスクール推進事業とは

1 はじめに

昭和59年度から環境省と国土交通省による「全国水生生物調査」が開始され、福島県では「水生生物による水質調査（以下「水生生物調査」という。）」の参加団体を「せせらぎスクール」として募集すると共に、小・中学校、高等学校、市民団体等（以下「学校や団体等」という。）への実施を呼び掛けています。平成9年度から平成22年度は、数多くの学校や団体等が参加して「せせらぎスクール」の延べ参加人数は14年間連続全国1位（ピーク時は9,084名[平成13年度]）でした。

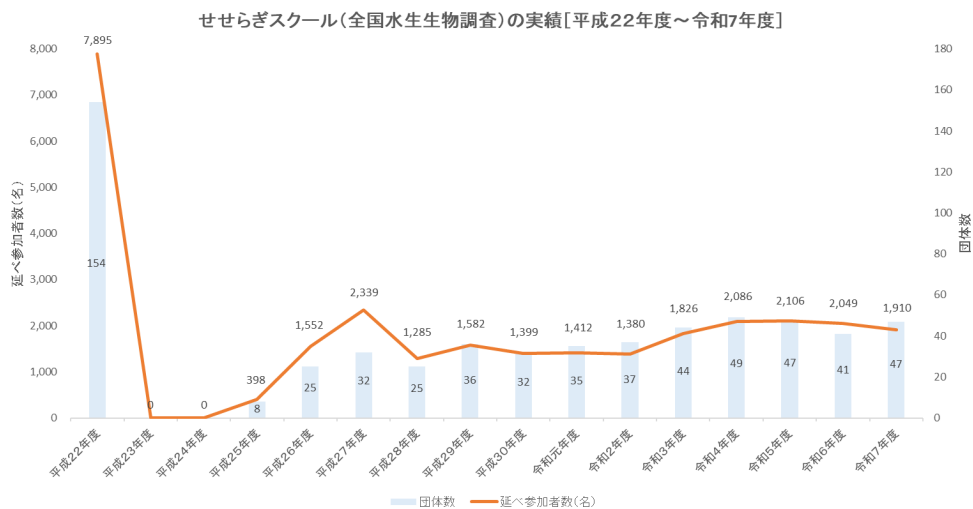
しかし、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に起因する原子力災害の影響を受け、屋外活動の制限、川辺の活動への不安等から、「せせらぎスクール」に参加する学校や団体等が大きく減少しました。

平成23年度から平成25年度まで参加募集を休止していた「せせらぎスクール」ですが、平成26年度から再開し、令和7年度の延べ参加者数は1,900名を超え、「遊水会」、「もとみやプラット」、「西郷くらしの会」、「夏井川流域の会」、「水辺の会わたり」をはじめ震災前から地域で水生生物調査を実施している団体を中心に、県内の学校や団体等に「せせらぎスクール」の活動が広がりつつあります。

福島県環境創造センター(以下「センター」という。)は、身近な河川等での水生生物調査を通じて、県民の水環境保全に対する意識の高揚を図ることを目的に、せせらぎスクール推進事業を実施しています。

学校や団体等に参加を呼び掛け、申込みのあった学校や団体等に対し水生生物調査に必要な教材を提供するとともに、「せせらぎスクール指導者養成講座」を開催して、水生生物調査の指導者を目指す方の育成を行っています。

また、せせらぎスクール推進事業をより多くの方々に周知するため、「せせらぎスクール推進事業報告書」及び「せせらぎスクール～うつくしま川の体験マップ～」の作成・配布を行い、せせらぎスクール推進事業の普及・啓発を図っています。







※平成25年度は参加募集を休止していましたが、自主的に水生生物調査をした団体で全国水生生物調査への参加を希望する団体（8団体398名）の調査結果を環境省に報告しました。

2 せせらぎスクールと SDGs

(1) SDGs とは


- SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、2015 年の国連サミットで採択された「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。
- SDGs は社会、経済、環境の 3 側面から捉えることのできる 17 の目標 (ゴール) と 169 のターゲットで構成されており、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことが目標とされています。
(出典：福島県環境教育等行動計画【第 2 次】)

(2) せせらぎスクールと SDGs の関連

- 「せせらぎスクール」は水環境保全意識を高め、身近な水環境 (河川) を大切にする活動です。「せせらぎスクール」は主に内陸の淡水域 (河川) で活動するので、SDGs17 のゴールのうち、主にゴール 15 (陸の豊かさを守ろう) に該当します。
- 「せせらぎスクール」を通して水環境保全意識を高め、自らの生活排水等を改善し、水質保全の取組を実践していくことは、SDGs のゴール 6 (安全な水とトイレを世界中に) にも該当します。
また、身近な水環境 (河川) を大切にするのは、やがて海にも影響を与えるので SDGs のゴール 14 (海の豊かさを守ろう) にも繋がります。
- 私たちの水環境を大切にする活動を、1 人また 1 人と周りの人に伝播していくことによって、今あるふくしまの美しい水環境を後世に守り繋いでいくことができます。周りの人と協力して SDGs を意識した活動を広げていくことは、ゴール 17 (パートナーシップで達成しよう) にも繋がっていきます。
- 自らが SDGs のゴール 15・6・14・17 を意識した活動 (水生生物調査や水環境保全の取組) を実践して、周りの人に気づきを与え、水環境保全の意識や活動が伝播していくよう、できることから積み重ねていきましょう。

☆本県が実施するせせらぎスクールと SDGs との関係性に関する動画をご視聴ください!



動画はこちらから 

第2 令和7年度せせらぎスクール推進事業の実績

1 せせらぎスクール

(1) 募集案内及び教材の提供

県内の「各市町村、各市町村教育委員会、各国立小・中学校、各私立小・中学校、各県立高等学校、各私立高等学校、水生生物調査実施団体、各公民館、各自然の家、こどもエコクラブ、県教育庁、各県教育事務所、県教育センター」などに「せせらぎスクール」の募集案内を行い、参加を呼び掛けました。

申込みがあった学校や団体等に、水生生物調査に必要な教材を提供するとともに、調査結果(調査場所及び参加人数、採集した水生生物、調査場所の水質階級等)を報告していただきました。

令和7年度は例年に比べ熊の目撃情報が大きく増加し、これまで過去最高だった令和5年度の約2.9倍に上りました。また、人身被害も昨年に比べ増加しました。熊の出没増加に伴い、せせらぎスクールの実施を断念する団体も見受けられました。今後は安全確保を第一優先としながら、水環境保全の活動を実施していく必要があります。

ア 募 集 期 間 令和7年4月21日(月)～令和7年9月30日(火)

イ 調 査 の 実 施 期 間 令和7年4月21日(月)～令和7年10月17日(金)

ウ 調 査 結 果 の 報 告 期 限 令和7年10月24日(金)

エ 提 供 教 材

(ア) 下敷き・ふくしま水生生物ハンドブック：参加者全員に1つずつ

(イ) ふくしま水生生物調査ガイドブック：各団体に1冊

(ウ) 冊子「川の生き物を調べよう」：指導者5人に対し1冊

(エ) COD パックテスト：参加者1人に対し1本×調査地点数

(オ) パックテスト比色表：COD パックテスト20本に対し1枚

(カ) その他説明書等



せせらぎスクールに申込みをした学校や団体等に提供した教材

(2) 教材提供団体

令和7年度は延べ40団体(2,048名)にせせらぎスクールの教材を提供しました。

No.	団体名	人数
1	白河市立関辺小学校	14
2	いわき市立三和公民館	23
3	伊達市立大田小学校	21
4	西郷くらしの会	6
5	川俣町立川俣小学校	63
6	公益財団法人ふくしま科学振興協会(ムシテックワールド)	60
7	田村市中央公民館	40
8	須賀川市立長沼東小学校 第4学年	25
9	須賀川市立長沼小学校 第5学年	30
10	須賀川市立白方小学校 第4学年	20
11	須賀川市立第一小学校 第5学年	100
12	天栄村立広戸小学校 第4学年	25
13	豊町みどり守り隊(遊水会)	12
14	志茂グリーンフィールド(子どもの水辺協議会)	40
15	みどりトラスト長沼(遊水会)	20
16	須賀川市立阿武隈小学校 第5学年	80
17	志茂グリーンフィールド(子どもの水辺協議会)	40
18	須賀川市立小塩江小学校 第4学年	13
19	須賀川市立長沼中学校 第1学年(子どもの水辺協議会)	40
20	遊水会	30
21	西郷村立川谷中学校 第1・3学年	13
22	夏井川流域の会	40
23	ふたば未来学園中学校 第2学年(NPO法人浅見川ゆめ会議)	30
24	吉井田学習センター	20
25	一般社団法人 川にさめ	10
26	水辺の会わたり	150
27	広野町立広野小学校(NPO法人浅見川ゆめ会議)	32
28	田村市立船引小学校	104
29	もんも 児童発達支援・放課後等デイサービス	15
30	須賀川市立白江小学校 第5学年	21
31	会津若松市湊学園 第4学年	15
32	石川町立石川小学校	90
33	川内コミュニティ未来プロジェクト	20
34	里山創生やぶき	30
35	もとみやプラット	22
36	福島市役所建設部河川課	200
37	もとみやプラット	21
38	もとみやプラット	15
39	もとみやプラット	24
40	もとみやプラット	21
41	福島市役所建設部河川課	300
42	いわき市立磐崎小学校	79
43	郡山市立河内小学校 第5・6学年	12
44	パルシステム福島環境委員会(夏井川流域住民による川づくり協議会)	30
45	福島市立湯野小学校 第4学年	26
46	柳津町立西山小学校 第5・6学年	6
	合計	2,048

(3) 調査結果報告団体

「せせらぎスクール調査結果集計用紙」により、延べ47団体(1,910名)から調査結果を報告いただきました。

No.	団体名	人数
1	いわき市立三和小学校 第6学年 (いわき市立三和公民館)	24
2	ムシテックワールド	84
3	会津若松市立湊学園	7
4	吉井田学習センター	23
5	田村市立船引小学校 第4学年	120
6	福島市役所建設部河川課	244
7	夏井川流域の会	28
8	広野町立広野小学校 (NPO法人 浅見川ゆめ会議)	30
9	福島県立ふたば未来学園高等学校 (NPO法人 浅見川ゆめ会議)	23
10	パルシステム福島環境委員会 (夏井川流域ネットワーク)	31
11	いわき市立磐崎小学校 (いわき環境研究室)	79
12	いわき市立好間第四小学校 (いわき環境研究室)	14
13	いわき環境研究室 (下小川地区子供育成会)	23
14	いわき環境研究室	20
15	西郷くらしの会	36
16	ステップアップ講座 (西郷くらしの会)	21
17	里山創生やぶき	45
18	石川町立石川小学校	89
19	福島市立湯野小学校	28
20	川俣町立川俣小学校	126
21	西郷村立川谷中学校	24
22	郡山市立河内小学校 第5・6学年	12
23	水辺の会わたり	6
24	一般社団法人 川にさめ	21
25	柳津町立西山小学校 第5・6学年	6
26	もとみやプラット	94
27	郡山市立湖南小中学校	14
28	郡山市立三和小学校	13
29	豊町緑守り隊 (遊水会)	12
30	志茂グリーンフィールド (志茂子供育成会、遊水会)	32
31	みどりトラスト長沼 (遊水会)	20
32	須賀川市立白江小学校 第4学年 (遊水会)	51
33	天栄村立広戸小学校 第4学年 (遊水会)	23
34	須賀川市立小塩江小学校 第4学年 (遊水会)	15
35	須賀川市立阿武隈小学校 第5学年 (遊水会)	85
36	須賀川市立長沼東小学校 第4学年 (遊水会)	20
37	須賀川市立第一小学校 第5学年 (遊水会)	96
38	須賀川市立白方小学校 第4学年 (遊水会)	18
39	須賀川市立長沼中学校 第1学年 (遊水会)	50
40	須賀川市立長沼小学校 第5学年 (遊水会)	23
41	遊水会	26
42	伊達市立大田小学校	20
43	もんも 児童発達支援・放課後等デイサービス	19
44	白河市立関辺小学校	12
45	川内コミュニティ未来プロジェクト	33
46	田村市中央公民館	30
47	せせらぎスクール指導者養成講座 (環境創造センター)	40
	合計	1,910

※調査地点毎に人数をカウントしているため、延べ人数として集計しています。
 ※教材提供をしていない学校や団体等からの報告も含まれます。

(4) 調査結果報告団体の紹介

※活動の写真や参加者の感想を提供いただいた調査結果報告団体のうち、一部を紹介します。

●須賀川市立白江小学校

実施年月日：令和7年7月9日（水）、10日（木）

実施場所：北向橋（岩根川）

人数：51名



水生生物を採集している様子

- 水質階級Ⅰ：なし
- 水質階級Ⅱ：カワニナ類、コオニヤンマ
- 水質階級Ⅲ：タニシ類
- 水質階級Ⅳ：アメリカザリガニ
- ◎その他の生物（水生生物、貝、エビ・カニ類）
 - ：トビイロトビケラ、サナエトンボ科、ミナミヌマエビ、タイワンシジミ、ヌカエビ
- ◎魚類
 - ：フクドジョウ、カワムツ、ドジョウ、タナゴ

●里山創生やぶき

実施年月日：令和7年7月20日（日）

実施場所：矢吹町うぐいす橋上流（隈戸川）

人数：45名



ヒラタドロムシ類



水生生物を採集している様子

●水質階級Ⅰ：なし

●水質階級Ⅱ：カワニナ類、コオニヤンマ

●水質階級Ⅲ：タニシ類、ミズカマキリ

●水質階級Ⅳ：アメリカザリガニ

◎その他の生物(水生生物、貝、エビ・カニ類)

：ハグロトンボ（成虫・幼虫）、コヤマトンボ、ヤンマの仲間のヤゴ、ヒゲナガトビケラ、モンカゲロウ、シロタニガワカゲロウ、シジミ、タイコウチ、アメンボ、カワリヌマエビ、アカハライモリ、キベリマメゲンゴロウ、ヌカエビ、ウシガエル、ツチガエル、トウキョウダルマガエル、オオクチバス、サナエトンボ

◎魚類：フクドジョウ、カラドジョウ、ヨシノボリ、ウグイ、オイカワ、カワムツ

●郡山市立河内小学校

実施年月日：令和7年8月29日（金）

実施場所：河内橋付近（逢瀬川）

人数：12名

カワゲラ類→



水生生物を採集している様子

- 水質階級Ⅰ：ナガレトビケラ類、ヒラタカゲロウ類、ヘビトンボ
- 水質階級Ⅱ：コオニヤンマ
- 水質階級Ⅲ：なし
- 水質階級Ⅳ：なし
- ◎その他の生物（水生生物、貝、エビ・カニ類）
：ヒゲナガカワトビケラ、コカゲロウ、オニヤンマなどの幼虫（ヤゴ）、ハグロトンボ、アメンボ

2 セせらぎスクール指導者養成講座

水生生物調査の指導者を養成し、各地におけるせせらぎスクールの活動の促進や学習内容の質を高めることで、県民の水環境保全意識の高揚を目的に、センターではせせらぎスクール指導者養成講座を開催しています。

令和7年度は、初心者向けの講座（初・中級編）と実践的に水生生物調査の指導を行う講座（実践編）を開催しました。

【講座の概要】

名称	内容	対象（※）
初級編	講義や河川実習をとおして、以下の内容について学習します。 <ul style="list-style-type: none"> ・調査にあたっての準備 ・水生生物調査の進め方 ・指標生物の説明 ・河川での水生生物採集 ・採集した水生生物の指標判定 ・水質評価の方法及び水生生物調査のまとめ 	次のいずれかに該当する方 ①水生生物調査未経験の初心者の方（水生生物調査の指導に興味のある方） ②新たに水生生物調査等の指導者的役割を担うこととなった方（過去に受講経験のある方を除く）
中級編	屋内実習をとおして、以下の内容について学習します。 <ul style="list-style-type: none"> ・初級編の内容に加えて、顕微鏡による水生生物の観察と同定実習及び解説 	次のいずれかに該当する方 ①初心者の方 ②水生生物調査に参加した経験がある方で、水生生物の同定についての知識を深めたいと希望する方
実践編	水生生物調査の実施方法等について、親子を対象に実践的な指導を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の安全確保 ・水生生物調査の進め方 ・河川での水生生物採集 ・採集した水生生物の指標判定と水質評価 ・実施方法や指導方法等についての意見交換 	次のいずれかに該当する方 ①水環境教育指導者養成講座または、せせらぎスクール指導者養成講座の初・中級編経験者 ②水生生物調査の指導者をされている方（又は過去にされていた方）で指導者としての知識・技術・ポイントを再確認したいと希望する方

※教職員、公民館の指導員、こどもエコクラブサポーター、環境保全活動団体関係者、自治体関係者等を対象に参加を呼びかけています。

(1) ア 初級編 (郡山会場)

水生生物を用いた水質調査にあたっての準備や水生生物調査の進め方、指標生物の解説、河川での水生生物の採集、水質評価の方法などを学びました。

日 時：令和7年5月25日(日) 10:00～15:00

場 所：郡山市河内ふれあいセンター (実習：逢瀬川)

講 師：福島大学共生システム理工学類 塘 忠顕 教授

人 数： [受講者] 5名 [講 師] 1名
[協 力] 1名 [事務局] 3名

※受講対象：水生生物調査未経験(初心者)で水生生物に興味のある方、新たに指導者を目指す方。

※水生生物調査の指導経験が豊富な方に「協力」という立場で、受講生のサポートをしていただきました。

【講座の内容】

- 1 河川下見
- 2 講義「水生生物調査の方法、指標生物の説明」
- 3 水生生物の採集と観察
- 4 講義「水質評価の方法・水生生物調査のまとめ」



【講座の様子】



◎ 参加者の感想 ※アンケート集計結果から抜粋

- ・環境教育や総合的な学習の時間で、身近な自然環境について取り扱うときに河川調査を行うなど、持続可能な環境について考える実践を行っていききたい。
- ・学校の活動に参加し、サポートしていききたい。
- ・河川調査を行う動機づけや行う際の安全指導の在り方、万が一事故が起こった際の対処法についてが課題だと感じた。

イ 初級編（裏磐梯会場）

水生生物を用いた水質調査にあたっての準備や水生生物調査の進め方、指標生物の解説、河川での水生生物の採集、水質評価の方法などを学びました。

日 時：令和7年6月1日（日） 10:00～15:00

場 所：裏磐梯ビジターセンター（実習：長瀬川）

講 師：福島大学共生システム理工学類 塘 忠顕 教授

人 数：[受講者] 5名 [講 師] 1名
 [協 力] 1名 [事務局] 3名

※受講対象：水生生物調査未経験（初心者）で水生生物に興味のある方、新たに指導者を目指す方。

※水生生物調査の指導経験が豊富な方に「協力」という立場で、受講生のサポートをしていただきました。

【講座の内容】

- 1 河川下見
- 2 講義「水生生物調査の方法、指標生物の説明」
- 3 水生生物の採集と観察
- 4 講義「水質評価の方法・水生生物調査のまとめ」

【講座の様子】



- ◎ 参加者の感想 ※アンケート集計結果から抜粋
・指標生物以外の生き物も覚えていきたい。

(2) 中級編 (福島会場)

基礎的な水質調査の知識があり、より専門的な知識の習得をめざしている初級編受講者向けに、水生生物を顕微鏡で観察し、同定実習や水質評価の方法等を解説しました。

日 時：令和7年6月29日(日) 午前の部：10:00～12:00
午後の部：13:00～15:00

場 所：福島大学

講 師：福島大学共生システム理工学類 塘 忠顕 教授

人 数：[受講者]午前の部：6名 午後の部：6名 [講 師] 1名
[協 力] 1名 [事務局] 2名

※受講対象：水生生物調査未経験(初心者)で水生生物に興味のある方、新たに指導者を目指す方。

※水生生物調査の指導経験が豊富な方に「協力」という立場で、受講生のサポートをしていただきました。

【講座の内容】

- 1 講義「水生生物調査の方法、指標生物の説明」
- 2 顕微鏡観察

【講座の様子】



◎ 参加者の感想 ※アンケート集計結果から抜粋

- ・地域の子どもたちに、川の生き物の多様性を伝えていきたい。
- ・まずは指標生物の特徴を覚えて、わかりやすい種の見分け方から実践していきたい。
- ・学校や地域の団体などの水質調査や環境学習の支援をしたい。
- ・猪苗代湖近辺の休耕田や河川に生息する生物調査をしたい。

(3) 実践編（須賀川会場）

せせらぎスクールの指導を行う受講生が、水生生物調査の実施方法等について一般親子に説明する実践的な指導の場を提供し、指導者としての資質向上を図ることを目的に、せせらぎスクール指導者養成講座実践編を開催しました。

日 時：令和7年7月27日（日） 9:30～14:30

受講生…9:30～14:30

親 子…10:15～12:50

場 所：須賀川市長沼保健センター（実習：江花川）

講 師：福島大学共生システム理工学類 塘 忠顕 教授

人 数：〔受講生〕5名 〔親 子〕11名（5組） 〔講 師〕1名

〔協 力〕1名 〔事務局〕3名

※受講対象：せせらぎスクール指導者養成講座（旧水環境教育指導者養成講座）の初級編または中級編経験者の方。水生生物調査の指導者をされている方（または過去にさされていた方）で指導者としての知識・技術を再確認したいと希望する方。

※水生生物調査の指導経験が豊富な方に「協力」という立場で、受講生のサポートをしていただきました。

【講座内容】

- 1 受講生 現地（江花川）確認
- 2 開講式
- 3 水生生物調査と水質評価・判定
- 4 閉講式

※親子は閉講式後に解散。

- 5 意見交換会

参加者：講師、受講生、事務局等

【講座の様子】





《意見交換会における受講生の声》

- ・子供に楽しんで参加してもらえた。
- ・怪我無く実施できてよかった。
- ・昨年も参加したが、昨年に比べ経験値・知識も増え、より詳しく教えられた。
- ・子供ももちろんだが、保護者の方も夢中になって生物を探していた。
- ・水質調査の際はライフジャケットがとても重要だと感じた。しかし、暑い時期は、熱中症の危険も高まるので、ライフジャケットの素材には注意しなければならない。
- ・事前に危険な場所を伝え、採集中にも伝えることができ良かった。
- ・日影がない場所の時は、テントやロープを張るなど、熱中症対策ができると良い。

6 アンケート集計結果（一部抜粋）

[親子の感想]

- ・身近な川にもたくさんの生物がいることに驚きました。
- ・河川に生息する生物の種類を知ることができた。
- ・身近にたくさんの生物がいて勉強になった。
- ・生物に関する興味を持ち続けたい。
- ・自分から水辺を汚さないようにしていきたい。
- ・ごみは必ず持ち帰り川を汚さないように心がけていきたい。
- ・今いる貴重な生き物を次の世代に繋いでいけるようにしていきたいです。

[受講生の感想]

- ・判別できる水生生物の種類が増えてきたため、即座に教えられるようになった。
- ・熱中症予防や安全な調査のための注意喚起を行うことができた。
- ・安全管理に気を付けて実施できた。
- ・子供達が飽きないような工夫を考えたい。
- ・学校現場での水生生物調査に役立てたい。
- ・体調管理について安全面への配慮も暑い日だったからこそできたので、日頃のフィールドワークでも気を付けていきたい。

第3 おわりに

センターでは、身近な水辺環境から、水環境保全への関心を一層高めていただくための学習機会をつくるため「水生生物による水質調査」の参加団体を「せせらぎスクール」として募集し、教材を提供しています。

また、センターホームページには水生生物ハンドブックや水生生物調査ガイドブックを掲載しておりますので、ぜひ御活用ください。



水生生物調査の指導に必要な準備やロケーションをとりまとめています。



指導者が水生生物について、学習・指導等を行う際に必要な水生生物ハンドブックです。

令和7年度せせらぎスクール推進事業報告書 及びせせらぎスクールマップ

◆発行日 令和8年2月

◆発行 福島県環境創造センター

住所：福島県田村郡三春町深作10番2号

電話：0247-61-6129

FAX：0247-61-6119

メール：kansou-kikaku@pref.fukushima.lg.jp

ホームページ：<https://www.fukushima-kankyosozo.jp/seseragi-school.html>



環境創造センターHP

